

アート in 循誘 新春特別対談

「循誘の画家を知る ～服部大次郎 創造の軌跡～」

昔懐かしい佐賀の風景をユーモアたっぷりに描いた「記憶の風景」(佐賀新聞に連載)でお馴染みの循誘在住の画家、服部大次郎さんと佐賀県立美術館学芸員野中耕介さんとの対談を行いました。内容は服部さんの若き日々のことや恩師の話、「記憶の風景」連載中の思い、佐賀の美術界のことなど、多岐にわたりましたが、服部さんの絵に対する一貫した、ブレない姿勢が感じられました。下に対談の内容の一部を要約して記しています。

佐賀北高校で美術の吉田進一先生よしだしんいちに出会い、先生の間臭い、真っ直ぐな人間性に影響を受けた。当初芸大を目指し、浪人時代を東京で楽しく過ごしていた。しかし3年くらいが過ぎ、学生運動が終息し、世間が急速に静かになると、時代も変化したように感じられた。そして美術学校に行かなくても画家になれるのではと考えが変わった。また、本来ならそろそろ大学を卒業する時期だと思うと、次の世界が見たくなった。

それから外国に放浪の旅に出た。ストックホルムでは賃金が高く、皿洗いのバイトでも貯金ができるくらい稼げたが、自分が目指していることとは違うと感じ、長くは居なかった。道端で絵を売って生活することもできたが、実直に絵の探求をするような生活に戻れなくなると思い、しなかった。

佐賀に戻っても、簡単に良い絵は描けなかった。挫折して挫折して、戻ってみてまた挫折して、の繰り返しである。しかしそれでも横道にずれない、ブ

れないことを意識してきた。東京芸大の秀才だった山口亮一やまぐちりょういちさんも渡欧した武藤辰平むとう たつへいさんも悔しさやもどかしさがあったと思う。しかし本当の気持ちは誰にもわからない。それでも応援してくれる人がいる。私たちの絵を見てくれる人がいる。

「記憶の風景」はノスタルジーで描いた訳ではなく、事実、ドキュメントを意識して描いた。よく「絵の中にいる狐は何?」と聞かれるが、絵を描くことの照れ隠しとして、また、自分の分身として描いた。狐を探るのが楽しみ、という声をたくさん頂くようになり、わざと隠して描いてみたりした。物事は思ってもみない方向に進むこともある。連載中は循誘の町をたくさん歩き回った。それがとても楽しかった。

佐賀の美術界で活躍した人が忘れ去られようとしている。今からでももっと記録を残しておくべきではないだろうか。

行事予定 (令和3年3月～4月)

3月

2	火	食生活改善推進協議会定例会
3	水	子ども見守り隊
5	金	まち協役員会、拡大役員会
6	土	城東中学校卒業式 循誘公民館文化祭(～7日)(中止)
9	火	音楽サロン
10	水	カレーの日 くれよんロケット
11	木	民生委員児童委員連絡協議会 自治会長会
13	土	ふれあい軽スポーツ(中止)
16	火	市営バスワンコインシルバーパス券受付
17	水	子ども見守りパトロール
19	金	循誘小学校卒業式
21	日	休館日 春のじゅんゆう文芸賞短冊撤去作業
24	水	じゅんゆう歴史クラブ(現地研修)

4月

2	金	まち協役員会
6	火	食生活改善推進協議会定例会
9	金	城東中学校入学式
10	土	カレーの日
12	月	自治会長会
13	火	循誘小学校入学式
14	水	狂犬病予防集合注射 くれよんロケット 民生委員児童委員連絡協議会
16	金	体協総会
18	日	休館日
21	水	じゅんゆう歴史クラブ(公開)

※予定は変更になることもあります。

詳しい地域のスケジュールはこちらでご覧になれます。

